

ラオスで気付く
学校で学ぶ幸せ

◇私は3月に国際協力機構
(JICA) 研修でラオスに

行きました。JICAとは日
本政府の開発途上国に対する
援助を実際におこなう機関で
す。開発途上国とは「安心し
て飲める水がない」「戦争が
続いて安心して生活ができな
い」「子どもが勉強させても
らえない」など、私たちの当
たり前が当たり前ではない国
のことで、現在は約150カ
国(8割)が開発途上国です。

◇私は今までベトナム、マ
レーシア、ラオスのJICA
研修に参加してきましたが、
どの研修にも共通して感じた
のは「私たちの環境はどれほ
どめぐまれているか」という
ことです。教育をうけさせて
もらえるのも、おいしいご飯
をたくさん食べることができ
るのも、そして今日があるの
も、当たり前ではありません。
しかし私たちは別の「幸せ」
を求めてしまっているような
気がします。

◇ラオスの学校は電気がな
りか
(山梨英和高1年・堀内ま
りか)

く、2、3人の生徒で一つの
教科書をつかっていました。
電気がとおっていないので室
内は暗く、とても暑かったに
もかわらず生徒たちは笑顔
でした。その笑顔はまるで学
校に来れること自体が「幸せ」
と感じているようでした。ま
た交流タイムの時には一緒に
折り紙を折ったりスイカ割り
をしたり写真を撮ったりし
て、とても楽しい時間をすご
しました。今回の研修を経て、
当たり前のように与えられて
いる毎日に感謝しなければい
けないと感じるようになりま
した。